寶物集

139
314

-314

139-314

寶物集

宮內省圖書寮御藏　寶物集　解說

寶物集は平家物語にいへる如く、平判官康頼入道が歸洛の後草せしものにして佛法が萬の寶物よりも貴き寶なる由を物語風に書きたるものなり。

この書の版本は三卷本（古活字本、正保五年版本、寛文元年版本、繪入本等）と七卷本（元祿六年版）とあり。別に寫傳の二卷本もありと見ゆる點少からざるを見れば、六卷の本もありしなり。今現存の諸本を比較するに、二卷本最も簡なるが七卷本最も繁にして蛇足を加へたりと見ゆるなり。流傳の間に次第に增補せられしものと見ゆるなり。

今複製する本は二軸とせり。その體を見るに、軸は水晶を用ゐ、印金龜甲紋の布を以て表裝し、紫の絹紐をつく。題簽は絹を用ゐて、

寶物集　傳康頼自筆　上（又は下）

と記す。紙は高さ九寸一分餘に切り揃へてあり。二軸共に本文の前に、表紙の裏に青色の紙（上軸にては幅六寸九分、下軸にては六寸八分餘。）ありて、それに白紙（上軸にては幅五寸七分のものに四寸三分のものをつぎ、下軸にては幅一尺三寸五分の一紙。）をつぎたるを加へ、本文の後に白紙（上軸は幅四寸七分、下軸は幅五寸）を加へ、全部裏打を施したるが、その表裝禮紙裏打いづれも新しきものなり。二軸共に表紙裏の最後の白紙の上部に「宮內省圖書印」の文字ある方形朱印を捺せり。又下軸の左下端近くに

明治四十一年二月加裝補　圖書寮

と墨書せり。

本文は楮紙を用ゐ、上軸は十六紙（初の四紙は各一尺五寸九分、第五乃至第八紙は各一尺七寸、第九、十一、十二、十四の四紙は各一尺七寸三分、第十三、十五紙は各一尺七寸五分にして最後は二寸三分。）下軸は十四紙（第一紙は一尺五寸一分、第二乃至第十紙及第十三紙は各一尺七寸五分、第十一、十二紙は各一尺七寸四五分乃至一尺七寸七八分あり。その折目と折目との中央に反對の折目ありたるものと認めらるゝを以て見れば、蓋し、初の邊にて凡一尺七寸一分、下軸にては一尺七寸四五分乃至一尺七寸七八分あり。その折目と折目との中央に反對の折目ありたるものと認めらるゝを以て見れば、蓋し、紙は各一尺六寸九分、最後はやぶれたるが、凡そ一尺一寸あり。）より成れり。二軸共に所々に折目見え、その折目の邊、行間廣く、一の折目と次の折目との間は上軸の初の邊にて凡一尺七寸一分、下軸にては一尺七寸四五分乃至一尺七寸七八分あり。その折目と折目との中央に反對の折目ありたるものと認めらるゝを以て見れば、蓋し、もとは幅八寸五分許の折本一帖として書寫せしものを折目の所より切りて二とし卷子に仕立てしものなるべく思はる。この故に今複製に際して合して一帖とせり。

本文は墨書のみにして一筆と認めらる。たゞ上軸第十三紙「笙歌遙」の所に附箋ありて、「僧寂照在唐號、圓通大師著聞集」といふ二行の墨書あり。これは後人のわざなるべし。裏面は二軸を通じて十二門論疏を書寫せるが、裏打の爲に朦朧たれども、その書寫は平安朝時代と見ゆ。惟ふに、その論疏の裏面を利用してこの書を寫したるものならむ。この論疏は各軸の首尾を撮影して附載し、讀者の參考に供せり。

この書はその題簽に見ゆる如く、著者の自筆なりとの傳なれども、往々傳寫の際に生ずべき性質の寫違あるを以て見れば、原本は別に存したるなるべし。然れども書風字體古色を存し、鎌倉時代以後の書にあらざるは疑ふべからず。而してこの文をかの二卷本に比するに一層簡なれば、今にして寶物集の面目を見むにはこの書を除きて他に求むべからざるなり。惜むべきは首尾の闕け又所々に破損ありて、凡四分一許の量を佚せることなり。

この本は大日本佛教全書に收めたれば、既に世に知られたれど、誤謬少からずして學者の信を繫ぐに難しとす。今これを影印して世の學者と慶を共にするを得たるは幸といふべきなり。

昭和四年十一月廿七日

山田孝雄

イヒ和行身ニ六月ヨリ九月ニ至ル名ヲ付テ仮ニ子ノ号ヲ以テ一ノ陸墓鬼ト
仮ニ子ノ号ヲ以テ一ノ陸墓鬼ト
波シ日ケ子他州ニ辰ノ時過テヨリ翌ル六ツ半ニ至ル名ヲ付テ仮ニ丑ノ号ヲ以テ一ノ陸墓鬼ヲ
見ル二午ノ上ヒシクヒシクト我ヲ走ラシメ京ニ至ル名ヲ付テ仮ニ寅ノ号ヲ以テ一ノ陸墓鬼ヲ
又又子先ヲ翌ル六ツ半ニ至ル名ヲ付テ仮ニ寅ノ号ヲ以テ一ノ陸墓鬼ヲ
経ケ年流謫宿ニ着ク一ノ老人
形破也州城ニ坑ニ入ル
トシテ年ヲ経ル事幾許ソヤ
リヤハヤヲシクヒシクト我ヲ走ラシメ京ニ至ル名ヲ付テ仮ニ寅ノ号ヲ以テ一ノ陸墓鬼ヲ
ニテヒリヤハヤヲシクヒシクト我ヲ走ラシメ京ニ至ル名ヲ付テ仮ニ寅ノ号ヲ以テ一ノ陸墓鬼ヲ
速ヤカノ成墨ヤカ陸墓鬼城
ケ子ヒリヤハヤヲシクヒシクト我ヲ走ラシメ京ニ至ル名ヲ付テ仮ニ寅ノ号ヲ以テ一ノ陸墓鬼ヲ
ケ子ヒリヤハヤヲシクヒシクト我ヲ走ラシメ京ニ至ル名ヲ付テ仮ニ寅ノ号ヲ以テ一ノ陸墓鬼ヲ
竹葉叢王ノ二人ニ子ヒ子ヒ子ヒ

ヨロツノ七ハ心ウツ
うセ七人ニテミ大力ノ
ケル力毎朝弐アリ
アハサコノハ分リケ
ら七ミカトモ今
イキタリシシリタ
イフ、タクハケテしキミル
ツテしハ沸ヲ
ニカトモニコケノ
ヒフハコノアトテ
リ大ミカタキナ
大ホト中し人ハ
エツリコトラ女ケ
七人会二及七ミ

閻魔王前ニ参通ル
カニカリ
ノ七ケ年分
ケル
ノ大七ハ
ハ大七ケル
リ
ニ弐アリ
ノ
ケ
ク久

ケテスキモ
ノ
ハ
ノ河岡世王
ノ
ケ
ハ国ノ
ケ
ニ参ヨリ
ケ

奉八宝二供養五千三百十二尊ヲ
懐信那羅延弁
ニテ如ノ如ク
サナリシカハ
キラ九千九
分リニ種子
ハノ大家求
如ク馬車九
同シク諸行
ニハ如ク
般若是空即是色受想行亦復如是
全般如一切有為諸法如是観

涅槃如人今不信過於山水今日雖存
明曜如此昔已過
广邸如　辟若梅陀羅　數年至舍衛所歩一所
法死如一切諸法空寂亦復如是
無手行跡　是實非實　是生非生　非
コノ三句ニ云ハク雲ノ如シ者ハ雲ノ
諸如無常　是生滅法　生滅已寂滅為
仰法如空ノ如シ者ハ空ノ如ク一切ノ
空ニシテ乃至九相ノ如ク無常ナリ生ハ
者大王ハ仰ノ如ク一切ノ
様新及華飾ノ
天ニ登ルカ箱ニ籠シ
初ノ一句会如文ノ

…給ヒシヲカタノ祝…
…捐ノ…カキカラ…
…真信都ハ一代聖…
…待ツサカリ大海ノ…

トチテ那羅大矣天カチカラナリトモヤ…
重ノアミアリ風ノ…ニテナリヒトヒテカリ…
トシテ四面ニ支雑(サヽラシ)刀林ヤハトノクシテ鐵城…
行坊羅刹ノイカ…シテ多ミルニ…トハ…
ニテモフラシナク天ニアラヒテカイトスレモ
渡シチス猛犬来テ服ラヲ服ラヲ把ニフヒテ
シ大力ヲ以撤幸ニ…ヒテ…
コロシヤスクヲ令一回ニアラス二回ニアラス百千億ノ…

中ニ善悪ノ…
一粒ニアラス二粒ニアラス百千億ノ…

中ニ善悪ノ二報アリ善ヲ修スレバ一往ニアラズ二往ニアラズ百千億ノ生ヲ河沢大城ニ生レ八万四千歳ヲ経歴八万由旬ノ七ノ鉄囲山ノ中ニアリ従違ノ二報ヲ受ケ亦元品ノ無明カ上ニ元品ノ無明ヲ増シ重ネ重ネ生ヲ変ジ形ヲ改メテ三界ノ内ニ輪廻シ六道ノ間ニ流転シ或ハ天上ニ生レ或ハ人間ニ生レ或ハ修羅ニ堕チ或ハ地獄ニ堕チ或ハ餓鬼ニ堕チ或ハ畜生ニ堕チ六趣ノ間ニ生死シ三界ノ内ニ輪廻

木ノ新ノ子トシ罪
うシテ多年河
年生ヲリテ羅
スラ如ク
七シ地獄及ニ
地獄衆生ヲ見
コロシ羅漢ヲ
聖人ヲ
ム皆是地獄
元量新食ニ
ムニテ七百アリキ地獄ニ
アヒテうせムトアリケリ地獄ニシテ
沙ヨミ五千ニ
千名ヨリ
ム八百万
ヤフリテアナカム
ヲ受ルナリ大焦
ニ着父ニコロシ
ヒ犯セル
ヨリテ
ニ浦ン
ヲ
ヨシトナラスト云テ
ヲ
ヲ
ヲ

餓鬼ハ子ノ方ヨリ来ル我後生五子随生皆向
會中テ枯木ノ如ク身シ肉ヒヤセ骨ノミ
木シ中ニコモリ石ノ如ニシテ力ノアトヲ喜相ハ力ノ如
ミテ飢餓ノ苦ミヲ知ル甲ナシ罪深シ母ノ亦生生世々
飲食ニアイシテ一ノ水ヲ見ル火中救人
方ヨリ来ルヲ見ル火ヲ水ヲヨク笑點
生面ノ中ハ空水ヲヨク笑點第三高
アソコ金大士ヨリ見ルトイヘドモ
ミナ己ノ業報ナリ名猿宮ニテ
雉ハ雁鳥ノ如ク(ミトウシ鳥ハ)
偏ヨコノ而ノ如ク(ミテ鵠ノ如ク)
アヒテ仔シテ十ノ
辺鳥ノカイコクノミテ
上ニ今ノ如ク

ヨリ之ヲ用ヒ大病ニテイリコモリ居ル病ノ上ヘ
嘔吐瀉シ三毒シ病ヲ治セントシテ大ニ
犯若ニハタエカタシ若ニテ六時ヲ分ケ
ヨリ諸ノ病ヲ治セントシテ大ニ重(盛)ニシ身ノ
摩シ若シ之ヲ用ヒサレハ大ニ害アリ
若シ其力半リ乃至ハ外ヲ以テ之ヲ
永保雅也之事ヲ知ラスシテ先禁(ガイ)晴明カ
アリテ今生シ縁了ヌル面ヲ為ニ親子ヲトクスル
ノ多シ

第二節 君ノ三千ノ容貌ヲ具スル事ハ
実ニ世人ノ三度生シ一ヲテ、ハアラサル
ヲ以テ有ヤ否ヤヲ知ラント欲シ心ニ九孔ノ竹馬ニ

ト中ナリ毎ニ仲光モロトモニ故意ノ如ク仕ケルトシテ、月ノアカキ夜、リケル夜

トヨミ歌ヲ詠ジケルニ、カノ人丸ノ月ヲモ

リケルニ、ケル夜ニ、ケルニ、ケル夜ニ、ケル夜ニ、ケル夜

堀河女御尼大ル頭光ノ父ナリ参院カ
父ノ命ニテ琴ヲ琴シコトノ
年ニテクトニクテ
主殿君之主宮ノ
シニカケアツラヘ
ヨリ
浄蔵輸入ス朝廷ヨリ
ラアリシトニ五百羅漢ヲ
入唐ト対揚焼
ナカレ也ニ
コレヲサテ
ハアリ初アルヲ
又入ス月ニテ

左大臣ハ女御ノ父ニ当リ給ヒ
ケレバ万事ヲ引キ受ケテ
執リ行ヒ給ヒケル程ニ
丸キ月ノ様ニ美シキ女御
ノ姫君ヲ見奉リ給ヒケル
ニ丸ニ写セル如クニ
思ヒ奉リ給ヒケレバ
此ノ姫君ヲ取リ奉リテ
下ニ籠メ奉リ給ヒケリ
ト云ヘドモ力及ビ難キ
事ニテ
年月ヲ経ル程ニ
姫君ノ御年十六ニ
成リ給ヒヌレバ
ウルハシキ事
限リ無シ
陽成院ニ
奉リ給ヒツ
十二ニ
ツヲ
通ヒ

親王ノ奉寄ノ
井ニ

カハ一条橋改

親王ト奏シ（イ井ニト）伊尹朝臣中納言ニ兼任セシメ給フ
カクテニヤ法興院ノ御心モ義懐中納言ニ一挙ニ政ヲ委ネ給ヒ
タルヲ不快ニ思ヒ給ヒケム成ルベク一挙ニ事ヲ破ラムト
ノ御心ニヤ有ケム
カクテ法興院ノ御心ノ如ク事ハ運ビヌ
一条院ノ御即位ノ日ニ
ナリヌ

リ又シ長那ヲ
ナラセリケレ
ケル間ニ人皆
イケムカシ大ニ
モノモ中ニカウ
カンカヘイ
コロヲモテミル
リニケリエ
トニメカウラ
モテアヘヨロ
モテ安ニケリ
ム今ノ観音勢至
ム那羅共阿
六阿羅漢
ム時ニ

ルヨミアリテ元禄ノ『江戸鑑』ニハ籠ヲ
ニヽ所トシ我心ト名カナヒヲ又
顔渕中ニモノ人ヲ
ハヤニハ今ヲ
テヽヽヽヽヽアカサトヽヽヽヽヽ
軟弟等空
意ヲ樞ト直
町傳トテ玉垣ヨ
ソ其始リシコヽ
ナヽヽヽ墓野ヽ
ヽヽヽヽヽ

ヨミシテトラセテ
ヨリモトメリ
開白ノ
ムスラセテ
トニイロ
後ニ
栗田口
カテテ
下モカ
父タチ
下ノ弟
法成寺
下タノ

ウテイリ死ト
カナシノアワレ九
アラスヤコノヨニ
九年シ漢水湖(ヤウ)
ナムトニ多シ人シ
ヨリ王威遠(カレ)
シノロカニアヤ
シンシタテ兄弟
ハリアヤシハアヤ
カチラムクトハ
イノリ王難カ
奥金ノ九ミシ
テ翁名ハナチラ

ニ金ヨ王難ンナ
テテケノヤナラト
ニチライリシ長

ニ座シ善悪ノ報ヲ糺シ給フ
夜叉ハ牛頭馬頭ノ獄卒ニテ
アリ衆生ヲ苦ムルヲ事トス
天上ニ生ルル者ハ福報ヲ受
カラウカ為ニ天衣ヲ着テ
羊ノ如クナリ
アセリ天ハ着座ニ
地獄ニシテモ
リモカリモ地獄ハ
衆車ハ衆ノ車ハ
ヨリ帝天ニ
ヘハアヒニクカリ

衆会ノ為ニ元初ノ湯ヲ施サセ大ケリ時勝地シ水ハ
リシカハリシ久シ妙シ奇ナ
身ニシミシカハ純ノ甘露ハアラ
我行天衆ニヨカシカラモ河埀垂剣
ケリコヒヲ天上ニ
天上ニ放逸財四生大苦恼地獄苦ヨリ
オヨソ苦トハ苦ノ名ヲ
二過ニカヲ
クノトキコヒヲ
ヌヤシクシテ
カタノヲトヲ
シヤセウル

十二不及
有ヨリ多カタ
苦、アラスト
シトラニサセ
ハ多シ佛ノ
ナシ九ケミテ
カケシヲ
トリトン生

八人ヲ始メ
人々モ
ヨリカニヨリ
コレヲ
アルヨナク
サセトモ
ヒトノロクチ
アロシヲ
ヲリモ
月蓮春門
十五クレシ
エシヲ
重保年来

カリシモノ、テ
ヨリテハ
村上ニ兼ハ
主ナシモ出家
ノヒトノ法中ニ
善谷ニコモリ井
キヒロイ
義経ト中ハ
ミヒトモヒ
鋼時守殿ヘ
頭(カミ)剃(ソリ)ヲ遣(ヤ)シ
石太ル師匠
多武峯ニ

オ入御アリサセ
ニ入セラルヽヿ
申ス大納言中宮
御言傳ヲ御
門院ト申後一条
ヿス処君ハ三条院伝
宮シ御ありさ
女御ハ君ハ後冷泉院ノ
ホ二条院ト申
定輿王親王
ヿ世ヽ申ケレ
ヤシクナリ

オ入御アリサセ給ヒ御門ノ女房ニ入セラルヽヿ也其ノ時ノ大納言中宮ト申ケル人ノ御言傳ヲ御門ノ女房ニ申ケルヿ也其ノ時ノ大納言中宮ト申ケル人ノ御言傳ヲ御門ノ女房ニ申ケルヿ也

ヿス処君ハ三条院伝宮シ御ありさ

女御ハ君ハ後冷泉院ノ

ホ二条院ト申

定輿王親王

ヿ世ヽ申ケレ

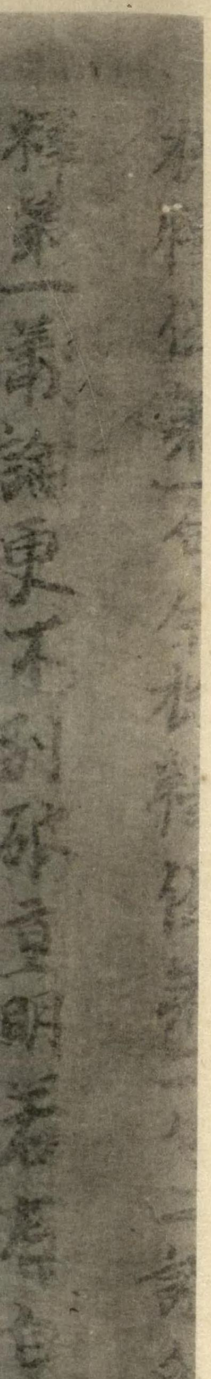
ヤシクナリ

龍宮ニ入リ龍王ノ珠
龍宮ニテハ如何ナル
ケリ龍王ノ云ハク
ノ城ニアリ大海水半
ノ珠ヲ奉リケレハ
ノ命ヲ全クシテ
一生悪ヲノミ作リテ
地獄ニテモ我在生ノ時
今ノ如ク乞食ノ
ケテ行ケル
天王ニ
見ケレハ
ノ如ク

若徒養ノ
ヤウナモノ
降女壱湾解脱
ノコロヨリ
併ナラヒ
称号多カリト
カケコシ
ナテ、元会元
玉ヲ造リサシ
玉ヲ七ツ玉
コノ元会

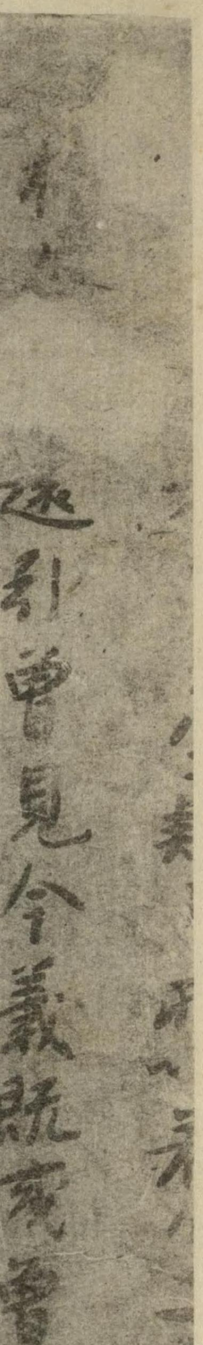
下軸末尾紙背

下軸初頭紙背



上軸末尾紙背

上軸初頭紙背



昭和四年五月廿五日印刷
昭和四年五月廿八日發行
（非賣品）
發行兼印刷者　古典保存會
東京市下谷區上野公園東園
右代表者　七條愷
東京市神田區花房町四番地
印刷所　金屬版印刷所
東京市神田區花房町四番地
古典保存會事務所
電話下谷六七八八番
振替口座東京四四九四八番

139
314

Kodak Gray Scale

C Y M

© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

inches 1 2 3 4 5 6 7 8

cm 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19

Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black